

学校法人 大阪学院 令和5年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 基本情報

① 法人の名称

学校法人 大阪学院

② 主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス等

〒565-0861 大阪府吹田市高野台4丁目2番1号

TEL : 06-6871-3307 Fax : 06-6871-3364 HP: <https://tamagawa-k.ed.jp>

(2) 設置する学校

玉川学園幼稚園

〒565-0861 大阪府吹田市高野台4丁目2番1号

① 認可定員 850名 (26クラス)

定員内訳 3歳児280名 (8クラス、ただし満3歳児を含む)

4歳児285名 (9クラス)、5歳児285名 (9クラス)

② 利用定員 810名 (25クラス)

定員内訳 3歳児270名 (9クラス、ただし満3歳児を含む)

4歳児270名 (8クラス)、5歳児270名 (8クラス)

③ 教育目標

幼稚園教育とは、幼児を心身ともに総合的に成長させ、自立した人間としての基礎を形成することを目的とする、という認識にたち以下の目標を設定する。

1. 子どもの心を育てる
2. よい仲間社会を育てる

(3) 園児数の状況

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
5歳児	8cl	220	220	220	219	218	218	217	216	215	214	214	214
4歳児	7cl	193	192	194	197	197	198	198	199	199	198	198	198
3歳児	6cl	152	154	155	155	153	154	153	154	156	155	155	155
満3歳児	2cl	0	0	0	0	0	30	30	30	30	30	30	30
合計	23cl	565	566	569	571	568	600	598	599	300	597	597	597

(4) 教職員の概要

教員数					職員数							
本務者					兼務者		本務者		兼務者			
園長	副園長	主幹	教諭	計	教諭	計	職員	計	職員	計		
1	1	1	4	2	4	5	3	3	4	4	0	0

2. 事業の概要

(1) 設置園の教育活動の概要

当法人は、教育基本法、学校教育法および子ども子育て支援法に則り、学校教育と子育て支援を行うことを目的として玉川学園幼稚園を設置し、その運営を行うものである。令和5年度においても在籍する幼児が心身ともに健全に育つように、その教育方針である「自然を題材にした表現の保育」の充実に努めるとともに教育環境の整備を図った。加えて、幼稚園教育に付随する子育て支援のための各種事業も継続および拡充を行った。

約3年に亘った新型コロナ・パンデミックは、昨年5月に新型コロナ感染症が感染症法上の2類から5類に変更されたことで一定の区切りが付き、社会経済活動は概ねパンデミック前の姿に戻った。本園でも、これを契機にして教育活動の制限を無くし、日常保育や各種行事もパンデミック前とほぼ同様の運営にて行うこととした。このことは子どもにとって望ましいことであったと思われる。また、運動会や参観日、発表会などコロナ中は分散形式や人数制限を設けて行っていたものを全体形式および無制限に戻したことで、保護者にもより広く幼稚園の教育活動をご覧いただくことができた。年度末の無記名保護者アンケート（回収率68%）では、①子どもを本園に通わせて「大変良かった（72%）」、「良かった（28%）」となり、②本園の教育内容については「満足（73%）」、「概ね満足（22%）」と回答いただいているが、対前年度比では各々の項目の「大変良かった」と「満足」が約5ポイント上昇しており、このことはコロナによる制限から解かれたことによる効果と考えられる。

令和5年度においては、園児数減少により年少組と年中組で各1クラス減となったが、新たに「満3歳クラス」を2クラス開設した。満3歳クラスでは、保育内容や行事内容は年少以上児とは独立したものにして無理なく幼稚園生活になじめるように工夫をした。

職員研修は、園内研究会を毎月1回の頻度で実施するほか、各種団体が主催する研修会や勉強会に参加して職員の資質向上に努めた。また、厚労省が制定した保育士等キャリアアップ研修を全員が種々の分野について受講したほか、園児の事故を未然に防ぐためのAED研修を専門の講師を招いて実施した。

子育て支援事業においては、預かり保育を年間通して午前8時～午後7時の範囲で実施した。預かり保育の需要は年々高まっており、今年度ののべ利用者数は27,756名にのぼり、前年度に比べて約2,000名増えている。総園児数が大幅に減少しているにも関わらず預かり保育利用者は伸び続けており、共働き家庭の増加が伺える。

子育て支援事業のキンダーカウンセリング事業は概ね月1回の頻度で実施して子育てをする保護者や本園職員の相談に臨床心理士が応じた。発達支援の必要な園児への適切な援助に関する助言も得ている。未就園児（2歳児）を対象とした「プレスクールつぼみ（幼児教室）」を火曜日から金曜日の週1回コースで実施し、就園前の集団遊びの指導を行った。また、月1回の頻度で親子体操教室も再開し、本園の体操コーチが親子体操を指導した。同じく、未就園児対象の「園庭開放」と「親子ふれあい保育室」を6月から8月にかけて適時実施し、本園職員が親子遊びを通して子育て家庭の交流の場を提供した。

(2) 実施した主な行事

実施日	内 容	学年
4月5日	入園式（2回の分散開催）	新入園児
4月11日	進級児始業式	年長・年中
4月13日～17日	個別面談	年長・年中
4月18日～20日	個別面談	年少
4月21日	保育参観日	年少
4月25日	保育参観日	年中
4月26日	保育参観日	年長
5月12日	春の遠足（万博公園）	年少
5月15日	春の遠足（王子動物園）	年長
5月17日	春の遠足（伊丹スカイパーク）	年中
6月11日	日曜参観日	全学年
6月16日	プール開き	全学年
6月19日	お楽しみ会（父母の会主催）	全学年
6月30日	交通安全教室	年長
7月7日	七夕あそび会	全学年
7月10日～14日	プール参観日	全学年
7月18日～20日	個別面談	全学年
7月21日	同園会	卒園児
8月25日～31日	夏期保育	全学年
9月1日	満3歳児入園	満3歳
10月8日	運動会	年少～年長
10月12日～17日	おいもほり	年少～年長
10月16日	親子運動会	満3歳
10月23日	秋の遠足（王子動物園）	年中
10月25日～11月8日	秋の参観日	年少～年長
10月27日	秋の遠足（万博公園）	年少
10月30日	秋の遠足（京都鉄道博物館）	年長
11月2日	七五三園外保育（伊射奈岐神社）	年長
11月28日	保育参観日	満3歳
11月29日・12月1日	うたとリズムの発表会	年少
12月5日～7日	うたとリズムの発表会	年中
12月9日	製作展	年長
12月15日～20日	個別面談	全学年
12月19日	クリスマス会	全学年
2月14日～16日	生活発表会	年中
2月20日・22日	生活発表会	年少

2月27日～29日	生活発表会	年長
3月1日	ひなまつり会	全学年
3月1日・4日	個別面談	希望者
3月5日	保育参観日	満3歳
3月7日	お楽しみ会（父母の会主催）	全学年
3月15日	卒園式	年長
3月19日	修了式	満3歳～年中
毎月最終金曜日(原則)	誕生会	全組

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

本園は令和2年度より「子ども子育て支援新制度」に移行し、国が定める公定価格に基づく施設型給付金を吹田市から受けて運営をしている。また、幼児教育保育の無償化で保護者からの納付金は大きく減少しているため、移行後の事業活動収入に占める施設型給付金等の公的資金の割合は80%を超えている。

今年度の事業活動収支において、経常収支差額は収入超過になっているものの、前年度に比べると大幅な減少になっている。これは、園児数が前年度に比べて約100名減少したことにより施設型給付金等の補助金収入が減少したことと人件費支出が増加したことによる。人件費の増加は、諸物価高騰に伴うベースアップを実施したことやフリー職員が増えたことに起因する。吹田市では、今後ますます少子化が進むものと思われるが、園児確保のためにはより一層の低年齢・長時間保育への取り組みが欠かせない。

今年度の資本的支出としては電子ピアノを1台購入したことに留まるが、施設維持のために修繕として屋上フェンスの貼り替えや必要箇所のペンキ塗装などを行った。資本的支出が少なかったため、貸借対照表の資産の部において固定資産が減少しているが、流動資産が増加しているため資産の総額から負債の総額を差し引いた正味財産は増加している。

資金収支においては、園児数の減少が続いていることから、生徒納付金収入や手数料収入、補助金収入等の教育活動に係る収入は減少しているが、施設設備に係る支出が少なかったため、繰越支払資金は増加している。